

吉(よし)・寄江原(よりえばら)地区での 地域管理構想の取組事例

岡山県真庭市(まにわし)

- 岡山県真庭市吉地区では、複数の作物がバラバラに栽培され、荒廃農地も増加するなど、整然としない土地利用が散見されていた。また、高齢者世帯や空家が集落中心から離れたところにあり、地域コミュニティの維持に課題があった。寄江原地区では、農事組合法人に集積が進まない農地があることや荒廃農地の増加が懸念されていた。これらについて対応方針を整理するため、地域管理構想の検討を開始した。
- R5年度にこどもデジタルマップワークショップ等を行い、構想図案を作成。R6年度にゾーニング、生き物調査等を実施し、R7年3月に地域管理構想を策定。

- 対象地域：岡山県真庭市吉地区・寄江原地区
- 地区概要：
 - ・ 人口等：吉地区 128 名、73世帯、高齢化率 約59%
寄江原地区 225 名、72世帯（営農に関わる地域）、高齢化率 約41%
(住民基本台帳R8.10.1現在)
 - ・ 位置：鳥取県と隣接する真庭市の南部に位置
 - ・ 地形：吉地区は吉備高原の北限にあり、寄江原地区は備中川沿いの水田地帯と里山がある。
- 検討体制：真庭市落合振興局、吉縁起村協議会、農事組合法人寄江原



■ モデル事業の取組の経過

- | | |
|---------|----------------------------|
| R5.5月 | ● 現状把握（GISマップ作成） |
| 9月 | ● ワークショップ |
| 11月 | ● 中国四国ブロック農村RMOフォーラムで取組発表 |
| R6.2月 | ● 吉地区の土地利用構想図案を作成 |
| R6.5月 | ● 関係者との意見交換（農地ゾーニング方針の整理） |
| 10月 | ● ため池での生き物調査 |
| | ● ワークショップ |
| R6.12月～ | ● 意見交換（スマート農業、鳥インフル発生時対応等） |
| R7.3月 | ● 地域管理構想の策定 |



子供達と話し合い



ため池調査



醍醐桜



- ゾーニングの基本的な考え方として「①**実現可能な**将来構想とする」「②農地を**水系ごとに分ける**」「③**生物多様性の視点**を据える」を設定。
- 基本的な考え方に基づき、「農用地」「農林地」「生活環境」の3つの戦略を策定し、それぞれに各エリアと管理レベルを設定。地図に落として地域管理構想図として見える化。（特に、農用地については、耕作状況や用水路の状態、集落協定の有無、生き物調査の結果等を踏まえ3段階の管理レベルを設定）

農用地

- 1. 水稲作に継続して取り組むエリア
県道370号線の西側は比較的平坦で、用水路の状態も良いので、稲作への重点化を図り、高収益が期待されるプリンセスサリー（カレー用のインディカ米）の栽培を推進。**また、コスト削減や軽労化を図るため、ドローン直播を同時に推進。**
- 2. 畑地転換・粗放管理を推進するエリア
県道370号線の東側は傾斜がきつく、用水路が壊れているので、畑地への転換（サツマイモ、ショウガ）や粗放的作物（カメラナ）の栽培、早生樹の植付けなどを推進。
- 3. 生物多様性の保全を図るエリア
ため池と、そこからの農業用排水路が保全されている農地で生物多様性を保全し、生き物調査を継続して、関係人口の創出と農産物のブランド化を図る。

管理レベル

農地の特性や利用状況に応じて管理レベルと導入する作物を設定

農地利用の区分	管理レベル	導入を進める作物（例）
水稲作を継続する農地	1	高収益が期待できるプリンセスサリー（ドローン直播）
畑地転換を行う農地	2	茶や菓子への加工用に栽培するすいおう（サツマイモ） 企業との契約栽培によるショウガ
粗放的作物を導入する農地	2	企業との契約栽培によるカメラナ
粗放管理や森林転換する農地	3	草刈りによる農地維持や早生樹の植栽
* 輪作農地	2	プシューム菌によるショウガの連作障害を避けるため、水稲、カメラナ等との輪作体系を構築



プリンセスサリー



すいおう



カメラナ

農地の特性や利用状況に応じて管理レベルと導入する作物を設定

農地利用の区分	管理 レベル	導入を進める作物（例）
水稲作を継続する農地	1	高収益が期待できる プリンセスサリー 従来の田植えから ドローン直播の推進
畑地転換を行う農地	2	茶や菓子への加工用に栽培する すいおう（サツマイモ） 企業との契約栽培による ショウガ
粗放的作物を導入する農地	2	企業との契約栽培による カメリナ
粗放管理や森林転換する農地	3	草刈りによる農地維持や早生樹の植栽
* 輪作農地	2	連作障害等を避けるため、水稲、カメリナ、ショウガ等との 輪作体系を構築

農林地

1. 鳥獣被害対策を重点的に取り組むエリア

イノシシ等による鳥獣被害対策として、中心部の農地に複合柵を整備。集落や森林と農地の境界に緩衝帯を整備し、草刈り等を実施。

2. 小規模集落の農地管理を支援するエリア

隣接する小規模集落の真賀集落に、中山間地域等直接支払制度の吉地区の集落協定に参加して**いただき拡大中**。併せて、スマート農業（リモコン草刈り機・ドローン）を導入し、低コスト・低負担の農用地管理を推進。

3. 森林を木質バイオマス資源として活用

家屋や道路周辺の森林で伐採された処理木を薪ストーブでの活用や、バイオマス集積基地への販売を**実証中**。また、伐採行為を鳥獣被害対策としても検討。



吉地区の
共同管理
の様子

生活環境

1. 高齢者を重点的に見守るべきエリア

高齢者単独世帯マップを基に、高齢者を重点的に見守るエリアを設定し、コミュニティバスでの移送時に日常的な安否確認を実施。必要に応じて福祉協議会等に連絡。

2. 太陽光発電対策を講じるエリア

太陽光パネルが設置されているエリアでは、大規模補修の時期と固定価格買取制度の終了を見据えて、適切な発電設備の管理や、元の農地・森林への原状復帰が図られるよう、集落内で話し合いを促進。

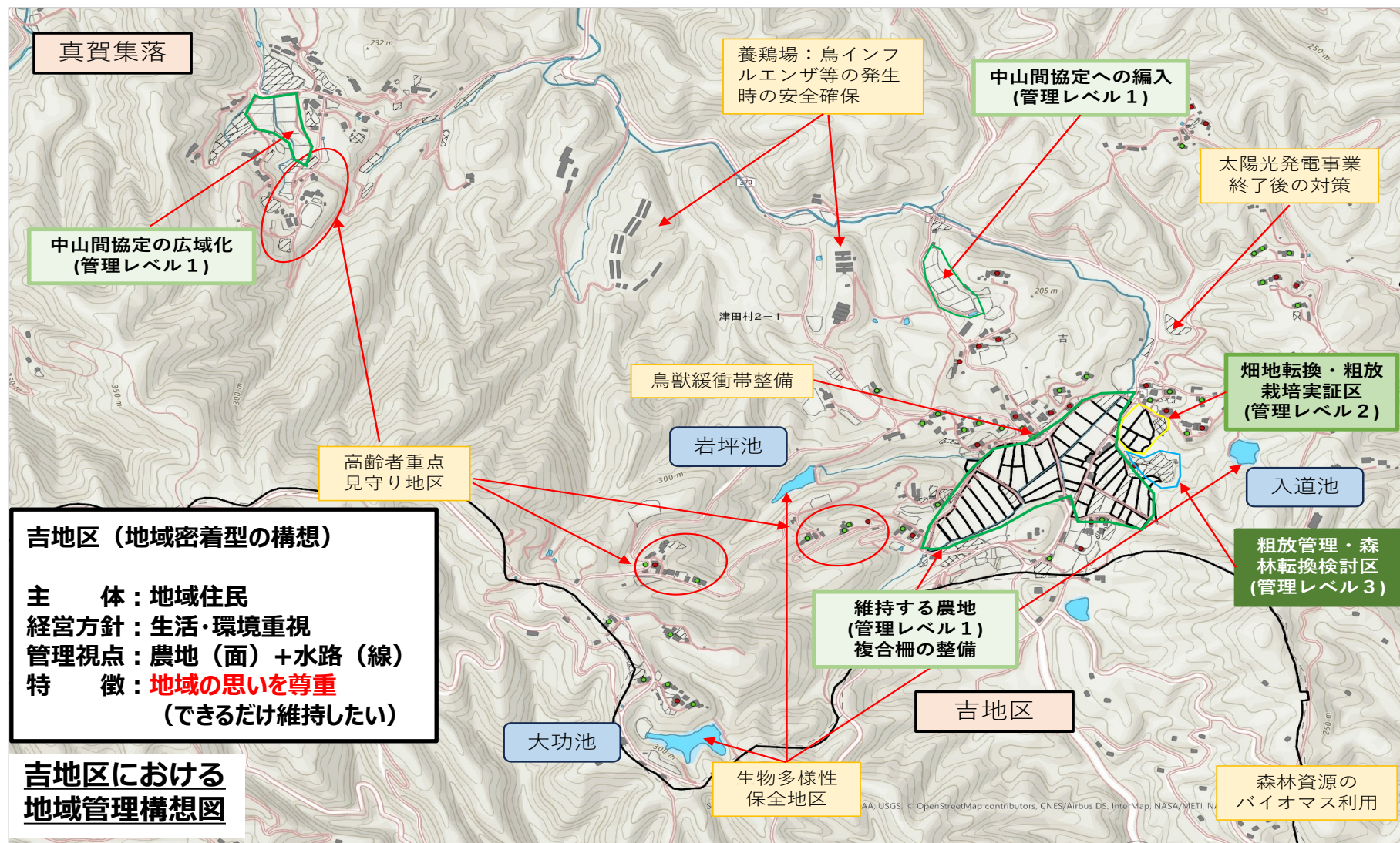
3. 鳥インフルエンザ対策を模索するエリア

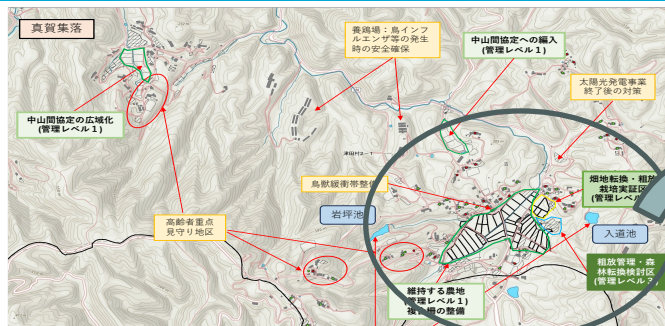
鳥インフルエンザ発生に備え、県や市と消毒ポイントや埋設処理の場所を話し合っていく。



コミュニ
ティバス

①と②で設定したエリアと管理の在り方、管理レベルをGISを活用して地図に落とし、吉地区の地域管理構想図として見える化を図った。

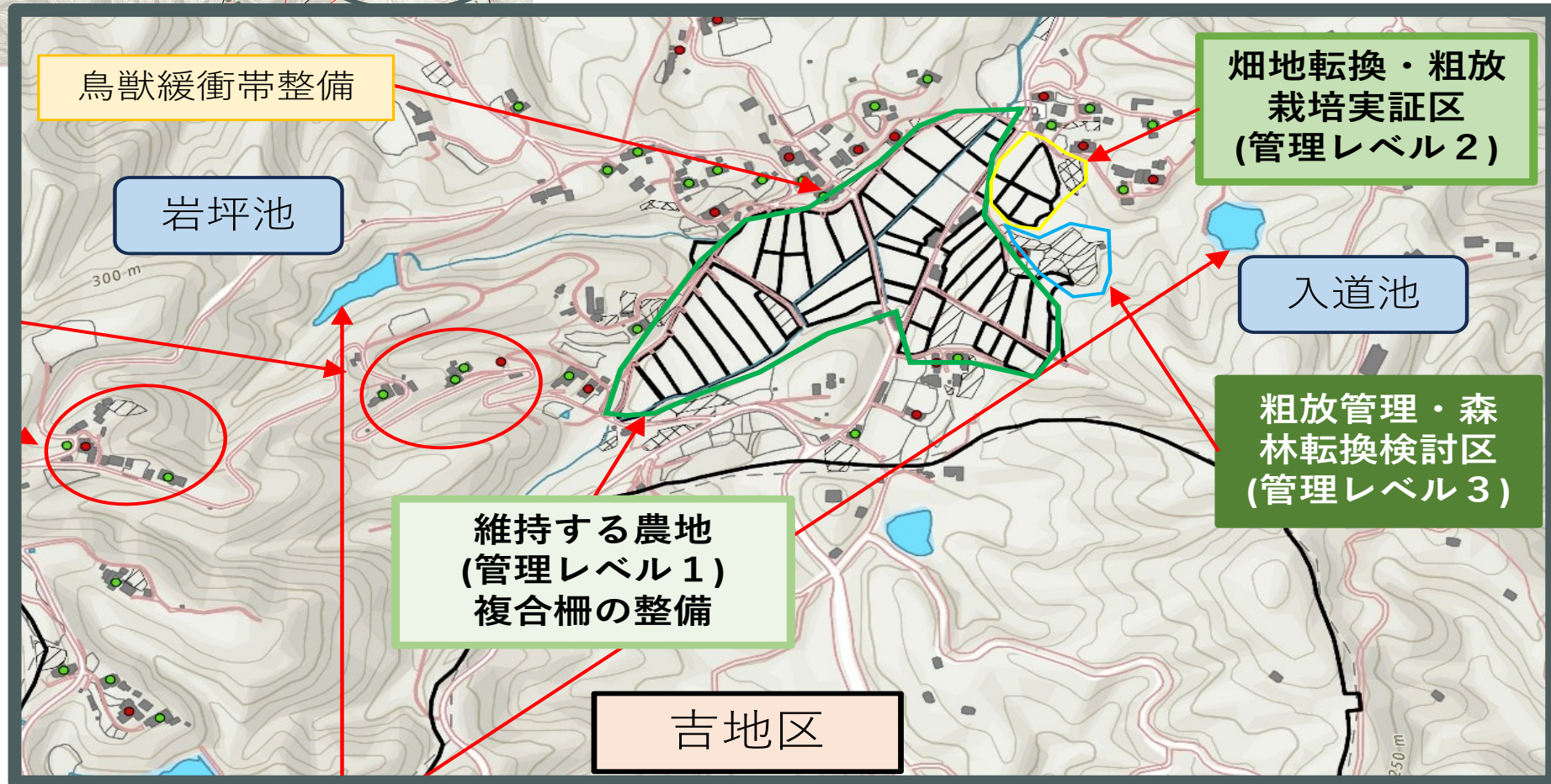




拡大

吉地区（地域密着型の構想）

主 体：地域住民
経営方針：生活・環境重視
管理視点：農地（面）+水路（線）
特 徴：**地域の思いが強い**
（できるだけ維持したい）



- 市内で唯一、ポンプ施設からのパイプラインによる灌漑が行われているA農地と、山際の小区画圃場であるB農地（B-1～4）に分類し、それぞれの戦略を策定。
- その上で、集落営農組織の視点を中心に、管理レベルを設定。

A農地

1. スマート農業で低コスト・効率的な稲作を推進するエリア

良好な灌漑設備のある農地のエリアでは、これまで以上に収量・食味計付きコンバインやドローン等によるスマート農業を推進し、低コストで効率的な稲作を実施。（管理レベル1）

2. 粗放作物や高付加価値作物を導入するエリア

稲作での収量を上げることができない農地のエリアでは、粗放作物のカメリナや高収益が期待されるプリンセスサリー（カレー用のインディカ米）等の作物の作付けを推進。（管理レベル2）

3. 農作業受託組織への管理委託等を推進するエリア

小規模で高齢の個人が営農する農地のエリアでは、農事組合法人 寄江原への管理委託や集約を推進していく。（管理レベルは圃場条件に応じて設定）



稲の播種や除草剤の散布等に
使われている大型ドローン



収量の向上が見込めない農地

B農地

1. 小麦生産を推進するエリア

比較的圃場条件が良いB-1、B-2農地では、引き続き稲作からカメリナ等への転換を推進。用水が不足しがちなB-2農地では、小麦の生産を重点的に推進。（管理レベル2）

2. 粗放作物や高付加価値作物栽培の可能性を模索するエリア

B-3農地では荒廃が進み、水源のため池の廃止も議論されているが、粗放作物であるカメリナや高収益が期待されるプリンセスサリーの導入が図られる可能性があるため、草刈り等で保全を図る粗放的管理の導入は保留する。

3. 有機肥料の活用を実証するエリア

新規参入した農業法人が移転した農地（B-3）のエリアでは、新規就農や農業法人の参入等を募集するとともに、生ゴミ液肥プラントで製造された有機肥料を活用した園芸作物の実証などを推進。（管理レベル2）



カメリナ（菜種的一种）
の種。食用油としてだけ
ではなく、航空燃料
（SAF）としての活用も
検討。

- 取りまとめたエリアの管理の在り方と管理レベルをGISを活用して地図に落とし、寄江原地区の地域管理構想図として見える化を図った。
- 見える化に当たっては、スマート農業の農地利用計画図を一つの参考とした。

スマート農業実証時（2018～2019年）の農地利用計画

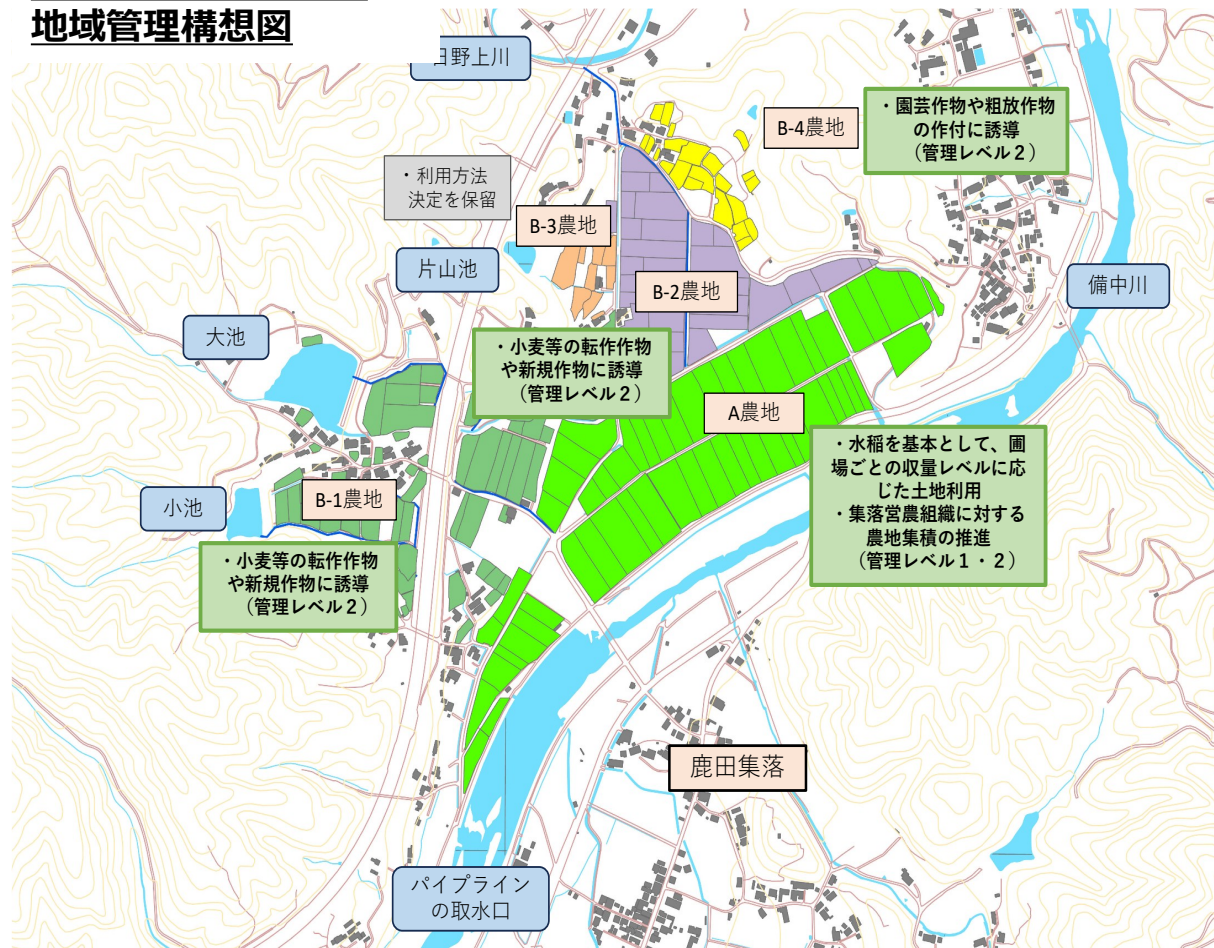


- 【B区】
- ・傾斜地の小区画不整形圃場が多い
 - ・ため池が水源
 - ・小麦、WCS等を作付け
- 【A区】
- ・3～5反に圃場整備
 - ・パイプラインが整備
 - ・組合自作地と作業受託地、個人営が混在

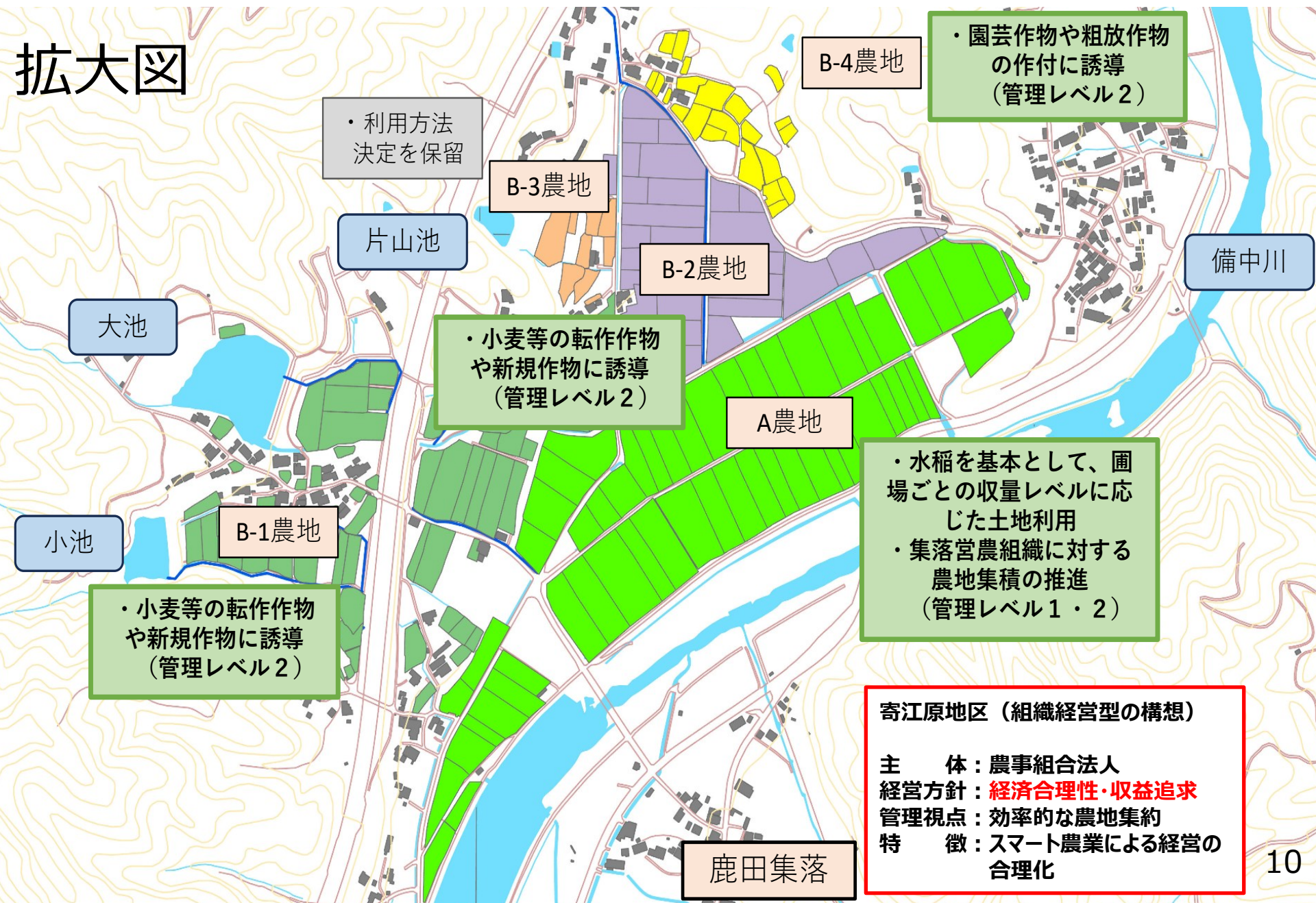
寄江原地区（組織経営型の構想）

主 体：農事組合法人
 経営方針：経済合理性・収益追求
 管理視点：効率的な農地集約
 特 徴：スマート農業による経営の合理化

寄江原地区における地域管理構想図



拡大図



寄江原地区（組織経営型の構想）

主 体：農事組合法人
 経営方針：経済合理性・収益追求
 管理視点：効率的な農地集約
 特 徴：スマート農業による経営の
 合理化

➤ 取り組んで良かったこと・成果

【吉地区】

- 地域の全体像（土地基盤及び管理体制）が明らかになり、農村RMO事業のうち農用地保全について効率性・実現性・持続性の観点から計画の改善が進んだ。

【寄江原地区】

- スマート農業で対応できる新規作物の推進などの効率性・実現性・持続性の観点から農地利用の計画の改善が進んだ。

【両地区共通】

- 地域管理構想を機に地域外の団体・人材の参画による地域管理の相互補完が進んだ。（農事組合法人・市内外企業・地域おこし協力隊）
- 地域管理において、構造的な歪み（例：利用頻度が低下した農地等に対し従来通りの管理負担が残存）を把握し、是正の検討対象を明確化できた。
- GISを用いて、情報を選択表示し、重点エリアの抽出や管理対象の整理を行うことで、管理レベル（水稻作・畑作・粗放管理）を設定できた。
- 土地・道路・水路・環境等の相互関係を把握・可視化し、効率性・実現性・持続性の観点で管理レベルを区分して事業化を検討することが、地域運営上有効であることが確認された。
- 集落協定（中山間直接支払交付金）のネットワーク化が進んだ。
- 指定地域協働活動団体に発展、さらなるネットワーク化と広域活動へ。

➤ 課題

【両地区共通】

- ゾーン分けのとおり、すんなり割り切って管理できない。
- 現場の状況は常に変化し続ける。

※計画どおり、実行することは本当に難しい。